

医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会のIF記載要領2013に準拠して作成

尿失禁・尿意切迫感・頻尿治療剤

オキシブチニン塩酸塩錠 1mg「日医工」

オキシブチニン塩酸塩錠 2mg「日医工」

オキシブチニン塩酸塩錠 3mg「日医工」

Oxybutynin Hydrochloride

剤形	錠 1mg, 錠 3mg : フィルムコーティング錠 錠 2mg : 素錠
製剤の規制区分	なし
規格・含量	錠 1mg : 1 錠中オキシブチニン塩酸塩 1mg を含有 錠 2mg : 1 錠中オキシブチニン塩酸塩 2mg を含有 錠 3mg : 1 錠中オキシブチニン塩酸塩 3mg を含有
一般名	和名 : オキシブチニン塩酸塩 洋名 : Oxybutynin Hydrochloride
製造販売承認年月日 薬価基準収載・発売年月日	承認年月日 : 2012年 8月 3日 薬価基準収載 : 2012年 12月 14日 販売年月日 : 2012年 12月 14日
開発・製造販売（輸入）・ 提携・販売会社名	製造販売元 : 日医工株式会社
医薬情報担当者の連絡先	
問い合わせ窓口	日医工株式会社 お客様サポートセンター TEL : 0120-517-215 FAX : 076-442-8948 医療関係者向けホームページ https://www.nichiiko.co.jp/

本IFは2019年6月改訂（第3版）の添付文書の記載に基づき改訂した。

最新の添付文書情報は、医薬品医療機器総合機構ホームページ
<http://www.pmda.go.jp/>にてご確認下さい。

IF利用の手引きの概要 —日本病院薬剤師会—

1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書（以下、添付文書と略す）がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した。

昭和63年に日本病院薬剤師会（以下、日病薬と略す）学術第2小委員会が「医薬品インタビューフォーム」（以下、IFと略す）の位置付け並びにIF記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成10年9月に日病薬学術第3小委員会においてIF記載要領の改訂が行われた。

更に10年が経過し、医薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて、平成20年9月に日病薬医薬情報委員会においてIF記載要領2008が策定された。

IF記載要領2008では、IFを紙媒体の冊子として提供する方式から、PDF等の電磁的データとして提供すること（e-IF）が原則となった。この変更にあわせて、添付文書において「効能・効果の追加」、「警告・禁忌・重要な基本的注意の改訂」などの改訂があった場合に、改訂の根拠データを追加した最新版のe-IFが提供されることとなった。

最新版のe-IFは、（独）医薬品医療機器総合機構のホームページ（<http://www.pmda.go.jp/>）から一括して入手可能となっている。日本病院薬剤師会では、e-IFを掲載する医薬品情報提供ホームページが公式サイトであることに配慮して、薬価基準収載にあわせてe-IFの情報を検討する組織を設置して、個々のIFが添付文書を補完する適正使用情報として適切か審査・検討することとした。

2008年より年4回のインタビューフォーム検討会を開催した中で指摘してきた事項を再評価し、製薬企業にとっても、医師・薬剤師等にとっても、効率の良い情報源とすることを考えた。そこで今般、IF記載要領の一部改訂を行いIF記載要領2013として公表する運びとなった。

2. IFとは

IFは「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等はIFの記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供されたIFは、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

[IFの様式]

- ①規格はA4版、横書きとし、原則として9ポイント以上の字体（図表は除く）で記載し、一色刷りとする。ただし、添付文書で赤枠・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。
- ②IF記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。
- ③表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「IF利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2頁にまとめる。

[IFの作成]

- ①IFは原則として製剤の投与経路別（内用剤、注射剤、外用剤）に作成される。
- ②IFに記載する項目及び配列は日病薬が策定したIF記載要領に準拠する。
- ③添付文書の内容を補完するとのIFの主旨に沿って必要な情報が記載される。
- ④製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。
- ⑤「医薬品インタビューフォーム記載要領2013」（以下、「IF記載要領2013」と略す）により作成されたIFは、電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体（PDF）から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

【IFの発行】

- ①「IF記載要領2013」は、平成25年10月以降に承認された新医薬品から適用となる。
- ②上記以外の医薬品については、「IF記載要領2013」による作成・提供は強制されるものではない。
- ③使用上の注意の改訂、再審査結果又は再評価結果（臨床再評価）が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合にはIFが改訂される。

3. IFの利用にあたって

「IF記載要領2013」においては、PDFファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則である。

電子媒体のIFについては、医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、IFの原点を踏まえ、医療現場に不足している情報やIF作成時に記載し難い情報等については製薬企業のMR等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、IFの利用性を高める必要がある。

また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、IFが改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、IFの使用にあたっては、最新の添付文書を医薬品医療機器情報提供ホームページで確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分留意すべきである。

4. 利用に際しての留意点

IFを薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。IFは日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。

また製薬企業は、IFがあくまでも添付文書を補完する情報資材であり、今後インターネットでの公開等も踏まえ、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

(2013年4月改訂)

目 次

I. 概要に関する項目	1	VI. 薬効薬理に関する項目	15
1. 開発の経緯	1	1. 薬理的に関連のある化合物又は化合物群	15
2. 製品の治療学的・製剤学的特性	1	2. 薬理作用	15
II. 名称に関する項目	2	VII. 薬物動態に関する項目	16
1. 販売名	2	1. 血中濃度の推移・測定法	16
2. 一般名	2	2. 薬物速度論的パラメータ	19
3. 構造式又は示性式	2	3. 吸収	19
4. 分子式及び分子量	2	4. 分布	19
5. 化学名（命名法）	2	5. 代謝	20
6. 慣用名，別名，略号，記号番号	2	6. 排泄	20
7. CAS 登録番号	2	7. トランスポーターに関する情報	20
III. 有効成分に関する項目	3	8. 透析等による除去率	20
1. 物理化学的性質	3	VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目	21
2. 有効成分の各種条件下における安定性	3	1. 警告内容とその理由	21
3. 有効成分の確認試験法	3	2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む） ..	21
4. 有効成分の定量法	3	3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由	21
IV. 製剤に関する項目	4	4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由	21
1. 剤形	4	5. 慎重投与内容とその理由	21
2. 製剤の組成	4	6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法	22
3. 懸濁剤，乳剤の分散性に対する注意	4	7. 相互作用	22
4. 製剤の各種条件下における安定性	5	8. 副作用	22
5. 調製法及び溶解後の安定性	8	9. 高齢者への投与	23
6. 他剤との配合変化（物理化学的変化）	8	10. 妊婦，産婦，授乳婦等への投与	23
7. 溶出性	8	11. 小児等への投与	23
8. 生物学的試験法	12	12. 臨床検査結果に及ぼす影響	23
9. 製剤中の有効成分の確認試験法	12	13. 過量投与	23
10. 製剤中の有効成分の定量法	13	14. 適用上の注意	23
11. 力価	13	15. その他の注意	23
12. 混入する可能性のある夾雑物	13	16. その他	23
13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報	13	IX. 非臨床試験に関する項目	24
14. その他	13	1. 薬理試験	24
V. 治療に関する項目	14	2. 毒性試験	24
1. 効能又は効果	14	X. 管理的事項に関する項目	25
2. 用法及び用量	14	1. 規制区分	25
3. 臨床成績	14		

2.	有効期間又は使用期限	25
3.	貯法・保存条件	25
4.	薬剤取扱い上の注意点	25
5.	承認条件等	25
6.	包装	25
7.	容器の材質	25
8.	同一成分・同効薬	25
9.	国際誕生年月日	25
10.	製造販売承認年月日及び承認番号	26
11.	薬価基準収載年月日	26
12.	効能又は効果追加，用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容	26
13.	再審査結果，再評価結果公表年月日及びその内容	26
14.	再審査期間	26
15.	投与期間制限医薬品に関する情報	26
16.	各種コード	26
17.	保険給付上の注意	26
X I.	文献	27
1.	引用文献	27
2.	その他の参考文献	27
X II.	参考資料	27
1.	主な外国での発売状況	27
2.	海外における臨床支援情報	27
X III.	備考	27
付表 1—1		28
付表 1—2		29
付表 1—3		30

I. 概要に関する項目

1. 開発の経緯

本剤は、オキシブチニン塩酸塩を有効成分とする尿失禁・尿意切迫感・頻尿治療剤である。

オキシブチニン塩酸塩製剤の「ウルгент錠 3mg」は、日医工株式会社が後発医薬品として開発を企画し、規格及び試験方法を設定、安定性試験、生物学的同等性試験を実施し、1996年3月15日に承認を取得し、1996年7月5日から販売を開始した。（薬発第698号（昭和55年5月30日）に基づき承認申請）

「ウルгент錠 2mg」は同様に、規格及び試験方法の設定、安定性試験、生物学的同等性試験を実施し、1997年12月15日に承認を取得し1998年9月1日から販売を開始した。（薬発第698号（昭和55年5月30日）に基づき承認申請）

再評価（品質再評価）の結果、2005年5月31日、「ウルгент錠 2mg」及び「ウルгент錠 3mg」は、薬事法第14条第2項各号（承認拒否事由）のいずれにも該当しないとの結果を得た。

規格揃えとして「ウルгент錠1mg」の開発を企画し、規格及び試験方法を設定、安定性試験、生物学的同等性試験を実施し、2011年1月14日に承認を取得し、2011年6月24日から販売した。（薬食発第0331015号（平成17年3月31日）に基づき承認申請）

医療事故防止のため、以下の販売名変更を行った。

承認年月日	販売名	旧販売名
2012年8月3日	オキシブチニン塩酸塩錠 1mg「日医工」	ウルгент錠 1mg
	オキシブチニン塩酸塩錠 2mg「日医工」	ウルгент錠 2mg
	オキシブチニン塩酸塩錠 3mg「日医工」	ウルгент錠 3mg

2. 製品の治療学的・製剤学的特性

- (1) 本剤は、オキシブチニン塩酸塩を有効成分とする尿失禁・尿意切迫感・頻尿治療剤である。
- (2) 重大な副作用（頻度不明）として、血小板減少、麻痺性イレウス、尿閉が報告されている。

II. 名称に関する項目

1. 販売名

(1) 和名

オキシブチニン塩酸塩錠 1mg「日医工」

オキシブチニン塩酸塩錠 2mg「日医工」

オキシブチニン塩酸塩錠 3mg「日医工」

(2) 洋名

Oxybutynin Hydrochloride

(3) 名称の由来

一般名より

2. 一般名

(1) 和名 (命名法)

オキシブチニン塩酸塩 (JAN)

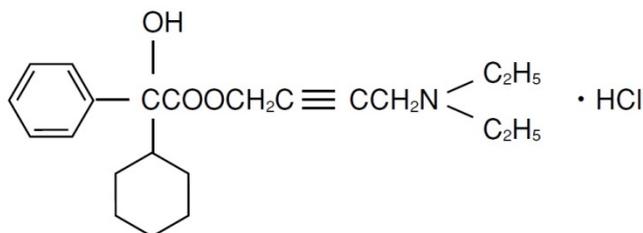
(2) 洋名 (命名法)

Oxybutynin Hydrochloride (JAN)

(3) ステム

不明

3. 構造式又は示性式



4. 分子式及び分子量

分子式 : $C_{22}H_{31}NO_3 \cdot HCl$

分子量 : 393.95

5. 化学名 (命名法)

4-Diethylamino-2-butynyl(±)- α -cyclohexyl- α -phenylglycollate hydrochloride
(IUPAC)

6. 慣用名, 別名, 略号, 記号番号

別名 : 塩酸オキシブチニン

7. CAS 登録番号

1508-65-2

Ⅲ. 有効成分に関する項目

1. 物理化学的性質

(1) 外観・性状

白色の結晶性の粉末である。

(2) 溶解性

メタノールに極めて溶けやすく、水、エタノール (95) 又は酢酸 (100) に溶けやすく、無水酢酸にやや溶けやすく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。

(3) 吸湿性

該当資料なし

(4) 融点 (分解点), 沸点, 凝固点

融点: 124~129°C

(5) 酸塩基解離定数

該当資料なし

(6) 分配係数

該当資料なし

(7) その他の主な示性値

本品の水溶液 (1→50) は旋光性を示さない。

本品の水溶液 (1→20) の pH は 3.5~4.5 である。

2. 有効成分の各種条件下における安定性

該当資料なし

3. 有効成分の確認試験法

(1) 呈色沈殿反応

本品の水溶液に塩化コバルト溶液及びフェロシアン化カリウム試液を加えるとき、緑色の沈殿を生じる。

(2) 呈色沈殿反応

本品の水溶液に硝酸銀試液を加えるとき、白色の沈殿を生じる。

(3) 赤外吸収スペクトル測定法

臭化カリウム錠剤法により測定するとき、 3320cm^{-1} , 2569cm^{-1} , 2480cm^{-1} , 1745cm^{-1} , 1209cm^{-1} 及び 1143cm^{-1} 付近に吸収を認める。

4. 有効成分の定量法

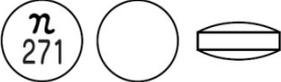
電位差滴定法

本品を無水酢酸、氷酢酸混液に溶かし、過塩素酸で滴定する。

IV. 製剤に関する項目

1. 剤形

(1) 剤形の区別, 外観及び性状

販売名	色調 剤形	形 状			本体コード 包装コード
		質量(mg)	直径(mm)	厚さ(mm)	
オキシブチニン塩酸塩錠 1mg 「日医工」	白色～帯黄白色のフィルムコーティング錠	 99	6.1	3.2	本体: n 271 包装: n 271
オキシブチニン塩酸塩錠 2mg 「日医工」	白色の片面割線入り素錠	 180	8.0	2.8	本体: n 272 2 包装: n 272
オキシブチニン塩酸塩錠 3mg 「日医工」	白色のフィルムコーティング錠	 94	6.1	3.2	本体: n 273 3 包装: n 273

(2) 製剤の物性

(「IV-4.製剤の各種条件下における安定性」の項参照)

(3) 識別コード

(「IV-1.(1)剤形の区別, 外観及び性状」の項参照)

(4) pH, 浸透圧比, 粘度, 比重, 無菌の旨及び安定な pH 域等

該当資料なし

2. 製剤の組成

(1) 有効成分(活性成分)の含量

オキシブチニン塩酸塩錠 1mg「日医工」: 1錠中オキシブチニン塩酸塩 1mg 含有する。

オキシブチニン塩酸塩錠 2mg「日医工」: 1錠中オキシブチニン塩酸塩 2mg 含有する。

オキシブチニン塩酸塩錠 3mg「日医工」: 1錠中オキシブチニン塩酸塩 3mg 含有する。

(2) 添加物

オキシブチニン塩酸塩錠 1mg「日医工」: 乳糖, セルロース, ヒプロメロース, 無水ケイ酸, ステアリン酸マグネシウム, マクロゴール, タルク, 酸化チタン, カルナウバロウ

オキシブチニン塩酸塩錠 2mg「日医工」: 乳糖, セルロース, ヒドロキシプロピルセルロース, ステアリン酸マグネシウム

オキシブチニン塩酸塩錠 3mg「日医工」: 乳糖, トウモロコシデンプン, セルロース, ヒドロキシプロピルセルロース, ステアリン酸マグネシウム, ヒプロメロース, マクロゴール, 酸化チタン, タルク, カルナウバロウ

(3) その他

該当記載事項なし

3. 懸濁剤, 乳剤の分散性に対する注意

該当しない

4. 製剤の各種条件下における安定性

(1) 加速試験及び長期保存試験

販売名	保存条件		保存形態	結果
オキシブチニン塩酸塩錠 1mg「日医工」	長期保存試験	室温 3年	最終包装形態	変化なし
オキシブチニン塩酸塩錠 2mg「日医工」	加速試験	40℃, 75%RH 6ヵ月	最終包装形態	変化なし
オキシブチニン塩酸塩錠 3mg「日医工」	長期保存試験	25℃, 60%RH 36ヵ月	最終包装形態	変化なし

(2) 無包装の安定性試験¹⁾

◇オキシブチニン塩酸塩錠 1mg「日医工」 無包装 40℃ [遮光, 気密容器]

測定項目 <規格>	ロット 番号	保存期間	
		開始時	3ヵ月
性状 <白色～帯黄白色のフィルム コーティング錠>	96001	適合	同左
崩壊試験 <60分以内>	96001	適合	同左
含量(%)※ <95～105%>	96001	99.2	98.8
(参考値) 硬度 (N) <19.6N 以上>	96001	51.9	58.8

※：表示量に対する含有率 (%)

◇オキシブチニン塩酸塩錠 1mg「日医工」 無包装 25℃・75%RH [遮光, 開放]

測定項目 <規格>	ロット 番号	保存期間	
		開始時	3ヵ月
性状 <白色～帯黄白色のフィルム コーティング錠>	96001	適合	同左
崩壊試験 <60分以内>	96001	適合	同左
含量(%)※ <95～105%>	96001	99.2	99.4
(参考値) 硬度 (N) <19.6N 以上>	96001	51.9	42.1

※：表示量に対する含有率 (%)

◇オキシブチニン塩酸塩錠 1mg「日医工」 無包装 室温, 曝光 [気密容器]

測定項目 <規格>	ロット 番号	総曝光量	
		開始時	120万 Lx・hr
性状 <白色～帯黄白色のフィルム コーティング錠>	96001	適合	同左
崩壊試験 <60分以内>	96001	適合	同左
含量(%)※ <95～105%>	96001	99.2	98.7
(参考値) 硬度 (N) <19.6N 以上>	96001	51.9	53.9

※：表示量に対する含有率 (%)

◇オキシブチニン塩酸塩錠 2mg「日医工」 無包装 40℃・75%RH [遮光, 開放]

測定項目 <規格>	保存期間		
	開始時	1 ヶ月	3 ヶ月
性状 <白色の片面割線入り素錠>	適合	同左	同左
溶出性 (%) <30 分, 80%以上>	適合	同左	同左
含量 (%) ※1 <95.0~105.0%>	99.2	94.6 (規格外)	90.7 (規格外)
(参考値) 硬度 (N) <19.6N 以上>	68.6	29.4 (規格内) ※2	29.4 (規格内) ※2

※1：表示量に対する含有量 (%) ※2：30%以上の硬度変化を認めたが、参考値(19.6N)以上であった。
変化あり：太字

◇オキシブチニン塩酸塩錠 2mg「日医工」 無包装 25℃・60%RH [遮光, 開放]

測定項目 <規格>	保存期間		
	開始時	1 ヶ月	3 ヶ月
性状 <白色の片面割線入り素錠>	適合	同左	同左
溶出性 (%) <30 分, 80%以上>	適合	同左	同左
含量 (%) ※1 <95.0~105.0%>	99.2	97.6	98.1
(参考値) 硬度 (N) <19.6N 以上>	68.6	39.2 (規格内) ※2	39.2 (規格内) ※2

※1：表示量に対する含有量 (%) ※2：30%以上の硬度変化を認めたが、参考値(19.6N)以上であった。
変化あり：太字

◇オキシブチニン塩酸塩錠 2mg「日医工」 無包装 室温, 曝光 [シャーレ開放]

測定項目 <規格>	総曝光量	
	開始時	120 万 Lx・hr
性状 <白色の片面割線入り素錠>	適合	同左
溶出性 (%) <30 分, 80%以上>	適合	同左
含量 (%) ※1 <95.0~105.0%>	99.2	93.7 (規格外)
(参考値) 硬度 (N) <19.6N 以上>	68.6	39.2 (規格内) ※2

※1：表示量に対する含有量 (%) ※2：30%以上の硬度変化を認めたが、参考値(19.6N)以上であった。
変化あり：太字

◇オキシブチニン塩酸塩錠 3mg「日医工」 無包装 40℃ [遮光, 気密容器]

測定項目 <規格>	ロット 番号	保存期間			
		開始時	2 週	1 ヶ月	3 ヶ月
性状 <白色のフィルムコーティング錠>	LD1101	適合	同左	同左	同左
溶出性 (%) <30 分, 75%以上>	LD1101	97.3~108.2	97.5~105.6	102.6~106.4	95.0~104.0
含量 (%) ※ <95~105%>	LD1101	98.7	99.0	100.7	100.6
(参考値) 硬度 (N) <19.6N 以上>	LD1101	49	54	55	52

※：表示量に対する含有率 (%)

◇オキシブチニン塩酸塩錠 3mg「日医工」 無包装 25℃・75%RH [遮光, 開放]

測定項目 <規格>	ロット 番号	保存期間			
		開始時	2 週	1 ヶ月	3 ヶ月
性状 <白色のフィルムコーティング錠>	LD1101	適合	同左	同左	同左
溶出性 (%) <30 分, 75%以上>	LD1101	97.3~108.2	83.6~101.3	94.5~108.5	86.0~100.5
含量 (%) ※ <95~105%>	LD1101	98.7	101.1	100.9	100.4
(参考値) 硬度 (N) <19.6N 以上>	LD1101	49	36	36	38

※：表示量に対する含有率 (%)

◇オキシブチニン塩酸塩錠 3mg「日医工」 無包装 室温, 曝光 [D65 光源, 気密容器]

測定項目 <規格>	ロット 番号	総曝光量			
		開始時	40 万 Lx・hr	80 万 Lx・hr	120 万 Lx・hr
性状 <白色のフィルムコーティング錠>	LD1101	適合	同左	同左	同左
溶出性 (%) <30 分, 75%以上>	LD1101	97.3~108.2	93.5~103.4	89.1~103.0	96.6~106.2
含量 (%) ※ <95~105%>	LD1101	98.7	101.4	100.9	102.0
(参考値) 硬度 (N) <19.6N 以上>	LD1101	49	48	48	48

※：表示量に対する含有率 (%)

本試験は、「(社)日本病院薬剤師会：錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性試験法について(答申), 平成 11 年 8 月 20 日」を参考に実施した。

5. 調製法及び溶解後の安定性

該当しない

6. 他剤との配合変化（物理化学的変化）

該当しない

7. 溶出性

（1）溶出規格

オキシブチニン塩酸塩錠 1mg「日医工」、オキシブチニン塩酸塩錠 2mg「日医工」及びオキシブチニン塩酸塩錠 3mg「日医工」は、日本薬局方外医薬品規格第 3 部に定められたオキシブチニン塩酸塩錠（1mg, 2mg, 3mg）の溶出規格に適合していることが確認されている。

（試験液に水 900mL を用い、溶出試験法第 2 法により、50rpm で試験を行う。）

溶出規格

表示量	規定時間	溶出率
1mg	30 分	80%以上
2mg	30 分	80%以上
3mg	30 分	75%以上

(2) 溶出試験²⁾

<オキシブチニン塩酸塩錠 1mg「日医工」>

後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン等の一部改正について（平成13年5月31日
医薬審発第786号）

試験条件

装置：日本薬局方 溶出試験法 パドル法

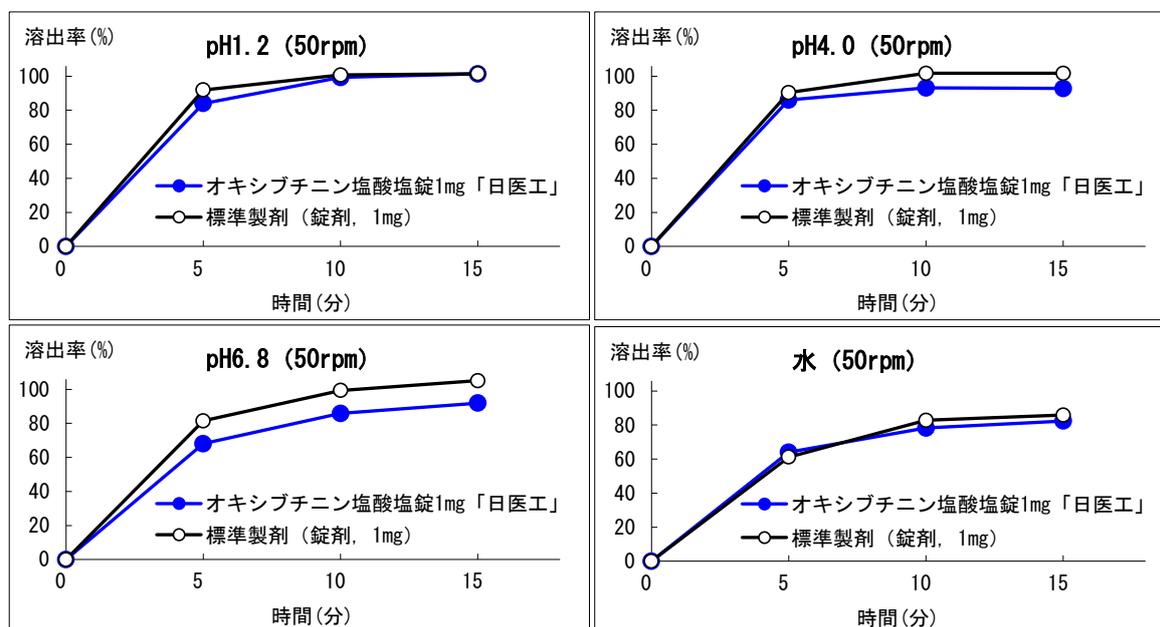
回転数及び試験液：50rpm (pH1.2, pH4.0, pH6.8, 水)

[判定]

- ・ pH1.2 (50rpm) では、標準製剤及び本品はともに15分以内に平均85%以上溶出した。
- ・ pH4.0 (50rpm) では、標準製剤及び本品はともに15分以内に平均85%以上溶出した。
- ・ pH6.8 (50rpm) では、標準製剤及び本品はともに15分以内に平均85%以上溶出した。
- ・ 水 (50rpm) では、標準製剤は15分以内に平均85%以上溶出し、15分における本品の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にあった。

以上、本品の溶出挙動を標準製剤と比較した結果、全ての試験液において「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」の判定基準に適合した。

(溶出曲線)



(n=6)

<オキシブチニン塩酸塩錠 2mg「日医工」>

後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン等の一部改正について（平成13年5月31日
医薬審発第786号）

試験条件

装置：日本薬局方 溶出試験法 パドル法

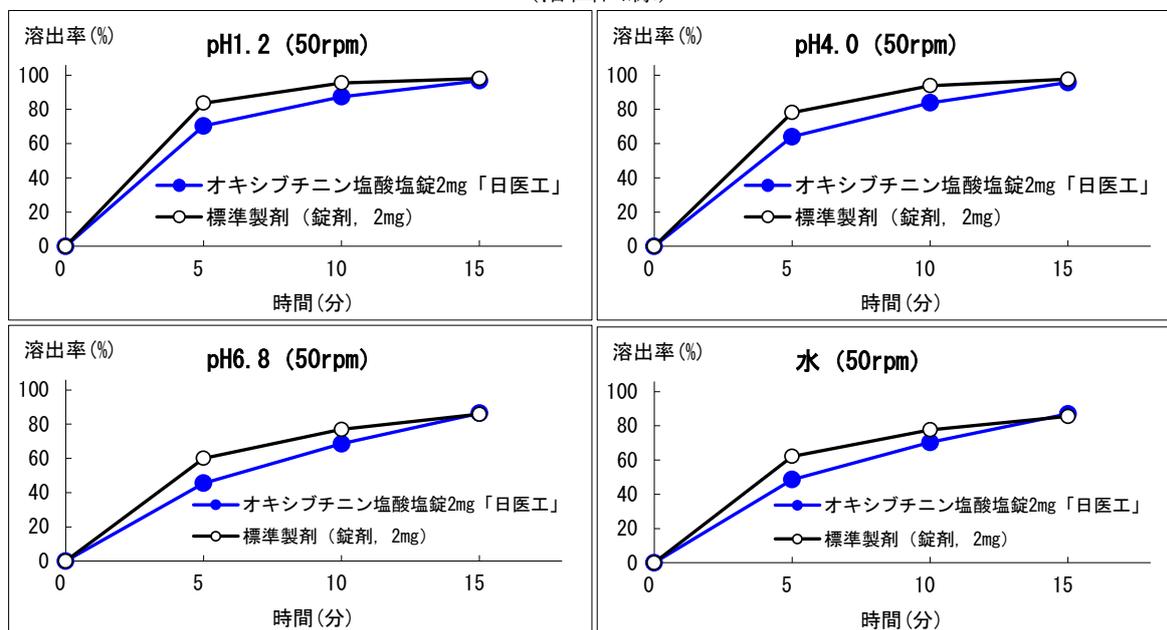
回転数及び試験液：50rpm（pH1.2, pH4.0, pH6.8, 水）

[判定]

- ・ pH1.2（50rpm）では、標準製剤及び本品はともに15分以内に平均85%以上溶出した。
- ・ pH4.0（50rpm）では、標準製剤及び本品はともに15分以内に平均85%以上溶出した。
- ・ pH6.8（50rpm）では、標準製剤及び本品はともに15分以内に平均85%以上溶出した。
- ・ 水（50rpm）では、標準製剤及び本品はともに15分以内に平均85%以上溶出した。

以上、本品の溶出挙動を標準製剤と比較した結果、全ての試験液において「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」の判定基準に適合した。

(溶出曲線)



(n=6)

<オキシブチニン塩酸塩錠 3mg「日医工」>

後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン等の一部改正について（平成13年5月31日
医薬審発第786号）

試験条件

装置：日本薬局方 溶出試験法 パドル法

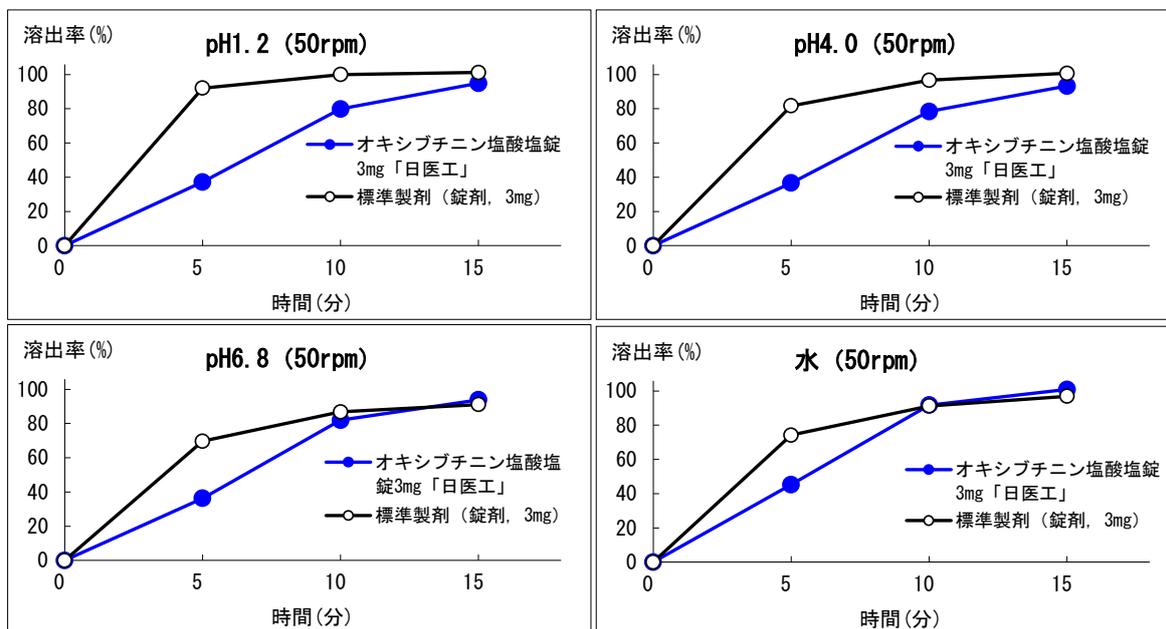
回転数及び試験液：50rpm（pH1.2, pH4.0, pH6.8, 水）

[判定]

- ・ pH1.2（50rpm）では、標準製剤及び本品はともに15分以内に平均85%以上溶出した。
- ・ pH4.0（50rpm）では、標準製剤及び本品はともに15分以内に平均85%以上溶出した。
- ・ pH6.8（50rpm）では、標準製剤及び本品はともに15分以内に平均85%以上溶出した。
- ・ 水（50rpm）では、標準製剤及び本品はともに15分以内に平均85%以上溶出した。

以上、本品の溶出挙動を標準製剤と比較した結果、全ての試験液において「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」の判定基準に適合した。

(溶出曲線)



(n=6)

8. 生物学的試験法

該当資料なし

9. 製剤中の有効成分の確認試験法

<オキシブチニン塩酸塩錠1mg「日医工」>

(1) 呈色沈殿反応

本品を粉末とし水を加えて攪拌後、ろ過する。ろ液にドラーゲンドルフ試液を加えるとき、だいたい色の沈殿を生じる。

(2) 紫外可視吸光度測定法

本品を粉末としアセトンを加えて攪拌後、ろ過する。ろ液を蒸発乾固し、残留物に塩酸試液を加えた液につき、吸収スペクトルを測定するとき、波長201~205nmに吸収の極大を示し、波長218~222nmに吸収の肩を示す。

(3) 薄層クロマトグラフィー

試料溶液及び標準溶液から得たスポットの R_f 値は等しい。

<オキシブチニン塩酸塩錠2mg「日医工」>

(1) 呈色沈殿反応

本品を粉末としメタノールを加えて攪拌し、遠心分離する。上澄液をろ過したろ液を蒸発乾固し、残留物を水に溶かしてろ過し、ろ液を試料溶液とする。試料溶液にドラーゲンドルフ試液を加えるとき、だいたい色の沈殿を生じる。

(2) 定性反応

(1) の試料溶液は塩化物の定性反応(2)を呈する。

(3) 薄層クロマトグラフィー

試料溶液及び標準溶液から得たスポットの R_f 値は等しい。

(4) 紫外可視吸光度測定法

本品を粉末とし塩酸試液を加えて振盪抽出した後、塩酸試液を加えてろ過する。ろ液を分取し、塩酸試液を加えて試料溶液とする。試料溶液につき吸収スペクトルを測定するとき、波長201~205nmに吸収の極大を、波長220nm付近に吸収の肩を示す。

<オキシブチニン塩酸塩錠3mg「日医工」>

(1) 呈色沈殿反応

本品を粉末としアセトニトリルを加えて攪拌後、遠心分離した後、上澄液を蒸発乾固する。残留物に塩化コバルト(II)六水和物溶液及びヘキサシアノ鉄(II)酸カリウム試液を加えるとき、緑色の沈殿を生じる。

(2) 紫外可視吸光度測定法

本品を粉末とし塩酸試液を加えて攪拌後、ろ過して試料溶液とする。別にオキシブチニン塩酸塩標準品に塩酸試液を加えて標準溶液とする。試料溶液及び標準溶液につき吸収スペクトルを測定するとき、試料溶液から得たスペクトルは標準溶液から得たスペクトルと同様の位置に同様の強度を示す。

(3) 薄層クロマトグラフィー

試料溶液及び標準溶液から得たスポットの R_f 値は等しい。

10. 製剤中の有効成分の定量法

<オキシブチニン塩酸塩錠1mg「日医工」>

液体クロマトグラフィー

検出器：紫外吸光光度計

移動相：水，アセトニトリル混液

<オキシブチニン塩酸塩錠2mg「日医工」>

液体クロマトグラフィー

検出器：紫外吸光光度計

移動相：リン酸二水素カリウム，水，トリエチルアミン，リン酸，アセトニトリル混液

<オキシブチニン塩酸塩錠3mg「日医工」>

液体クロマトグラフィー

検出器：紫外吸光光度計

移動相：トリエタノールアミン，水，リン酸，アセトニトリル混液

11. 力価

該当しない

12. 混入する可能性のある夾雑物

該当資料なし

13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報

該当しない

14. その他

V. 治療に関する項目

1. 効能又は効果

下記疾患又は状態における頻尿，尿意切迫感，尿失禁
神経因性膀胱
不安定膀胱（無抑制収縮を伴う過緊張性膀胱状態）

2. 用法及び用量

通常成人 1 回オキシブチニン塩酸塩として 2～3mg を 1 日 3 回経口投与する。
なお，年齢，症状により適宜増減する。

3. 臨床成績

（1）臨床データパッケージ

該当資料なし

（2）臨床効果

該当資料なし

（3）臨床薬理試験

該当資料なし

（4）探索的試験

該当資料なし

（5）検証的試験

1) 無作為化並行用量反応試験

該当資料なし

2) 比較試験

該当資料なし

3) 安全性試験

該当資料なし

4) 患者・病態別試験

該当資料なし

（6）治療的使用

1) 使用成績調査・特定使用成績調査（特別調査）・製造販売後臨床試験（市販後臨床試験）

該当資料なし

2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要

該当しない

VI. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理的に関連のある化合物又は化合物群

プロピペリン塩酸塩, 酒石酸トルテロジン, コハク酸ソリフェナシン, イミダフェナシン

2. 薬理作用

(1) 作用部位・作用機序³⁾

オキシブチニンは、平滑筋に対する直接作用及び向神経作用（抗ムスカリン作用）を有し、膀胱平滑筋を弛緩させる。

(2) 薬効を裏付ける試験成績

該当資料なし

(3) 作用発現時間・持続時間

該当資料なし

VII. 薬物動態に関する項目

1. 血中濃度の推移・測定法

(1) 治療上有効な血中濃度

該当資料なし

(2) 最高血中濃度到達時間

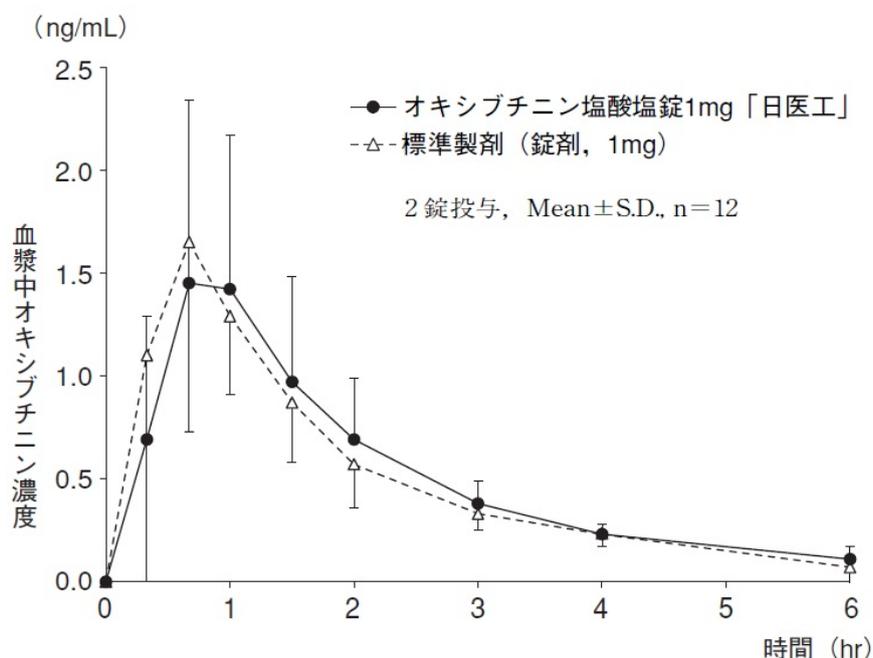
該当資料なし

(3) 臨床試験で確認された血中濃度⁴⁾

<オキシブチニン塩酸塩錠 1mg「日医工」>

生物学的同等性試験に関する試験基準（昭和 55 年 5 月 30 日 薬審第 718 号）

オキシブチニン塩酸塩錠 1mg「日医工」及び標準製剤を、クロスオーバー法によりそれぞれ 2 錠（オキシブチニン塩酸塩として 2mg）健康成人男子に絶食単回経口投与して血漿中オキシブチニン濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ（AUC, Cmax）について統計解析を行った結果、両剤の生物学的同等性が確認された。



[薬物速度論的パラメータ]

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUCt (ng·hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	t _{1/2} (hr)
オキシブチニン塩酸塩錠 1mg「日医工」	3.14±1.09	1.69±0.76	0.8±0.3	1.8±0.5
標準製剤 (錠剤, 1mg)	3.06±1.13	1.74±0.92	0.7±0.2	2.2±1.0

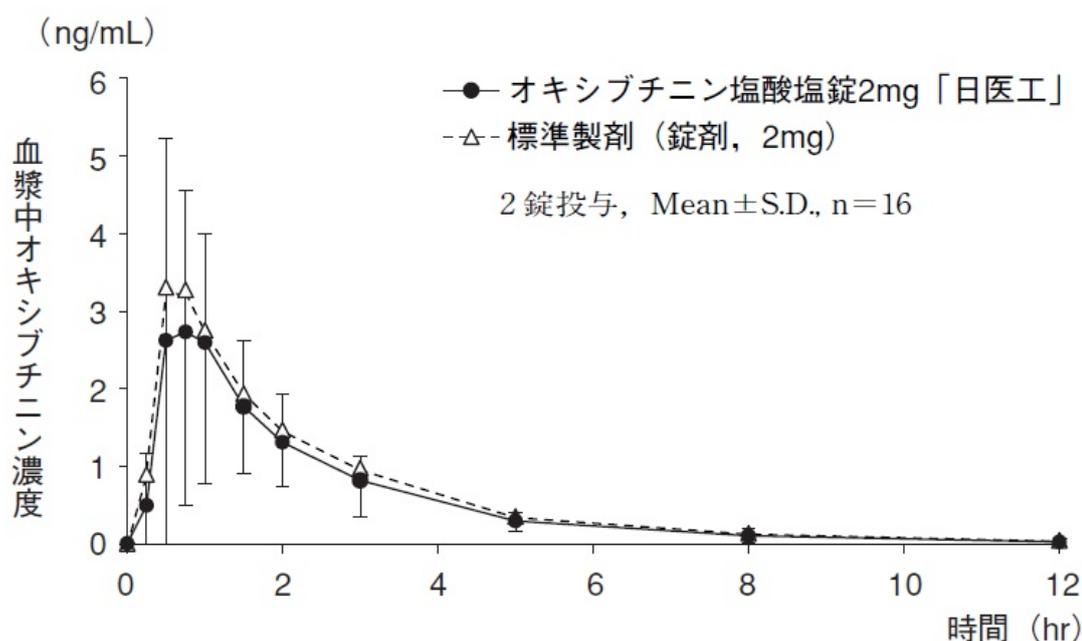
(2 錠投与, Mean±S.D., n=12)

血漿中濃度並びに AUC, Cmax 等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

<オキシブチニン塩酸塩錠 2mg「日医工」>

生物学的同等性試験に関する試験基準（昭和 55 年 5 月 30 日 薬審第 718 号）

オキシブチニン塩酸塩錠 2mg「日医工」及び標準製剤を、クロスオーバー法によりそれぞれ 2錠（オキシブチニン塩酸塩として 4mg）健康成人男子に絶食単回経口投与して血漿中オキシブチニン濃度を測定し，得られた薬物動態パラメータ（AUC, Cmax）について統計解析を行った結果，両剤の生物学的同等性が確認された。



[薬物速度論的パラメータ]

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUCt (ng・hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	t _{1/2} (hr)
オキシブチニン塩酸塩錠 2mg「日医工」	6.600±3.243	3.468±2.091	0.80±0.28	1.57±0.33
標準製剤 (錠剤, 2mg)	7.802±4.590	4.063±3.068	0.80±0.38	1.67±0.35

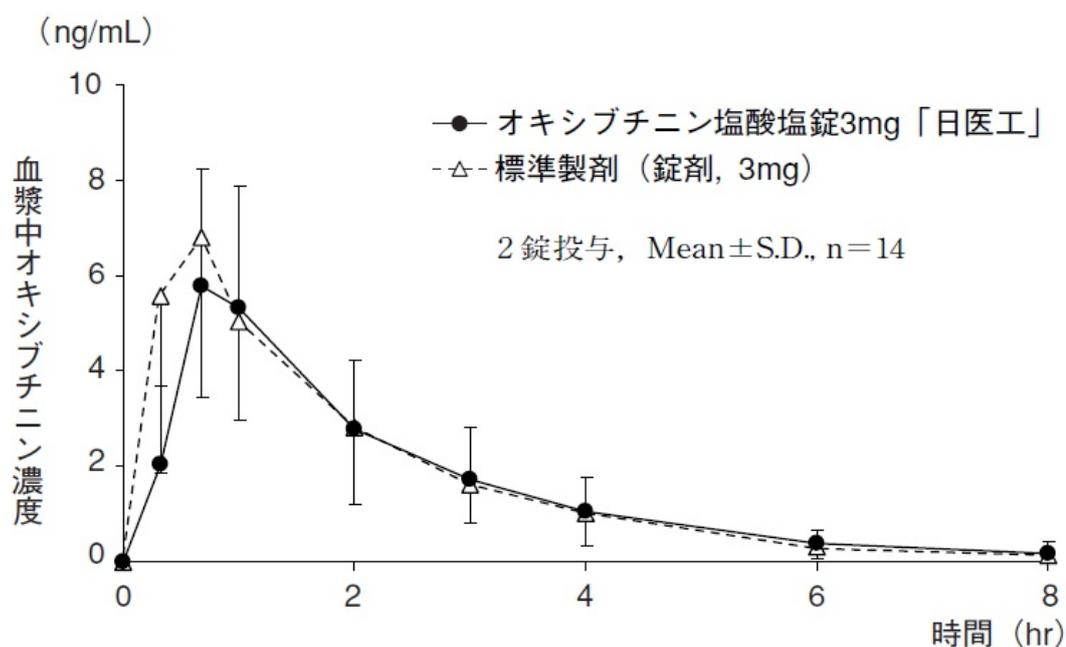
(2錠投与, Mean±S.D., n=16)

血漿中濃度並びに AUC, Cmax 等のパラメータは，被験者の選択，体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

<オキシブチニン塩酸塩錠 3mg「日医工」>

生物学的同等性試験に関する試験基準（昭和 55 年 5 月 30 日 薬審第 718 号）

オキシブチニン塩酸塩錠 3mg「日医工」及び標準製剤を、クロスオーバー法によりそれぞれ 2 錠（オキシブチニン塩酸塩として 6mg）健康成人男子に絶食単回経口投与して血漿中オキシブチニン濃度を測定し，得られた薬物動態パラメータ（AUC, Cmax）について統計解析を行った結果，両剤の生物学的同等性が確認された。



[薬物速度論的パラメータ]

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUCt (ng·hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	t _{1/2} (hr)
オキシブチニン塩酸塩錠 3mg「日医工」	13.21±5.26	6.63±2.21	0.83±0.37	1.72±0.61
標準製剤 (錠剤, 3mg)	14.26±6.13	7.36±3.19	0.60±0.19	1.54±0.49

(2 錠投与, Mean±S.D., n=14)

血漿中濃度並びに AUC, Cmax 等のパラメータは，被験者の選択，体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

(4) 中毒域

該当資料なし

(5) 食事・併用薬の影響

(「VIII - 7. 相互作用」の項参照)

(6) 母集団 (ポピュレーション) 解析により判明した薬物体内動態変動要因

該当資料なし

2. 薬物速度論的パラメータ

(1) 解析方法

該当資料なし

(2) 吸収速度定数

該当資料なし

(3) バイオアベイラビリティ

該当資料なし

(4) 消失速度定数

該当資料なし

(5) クリアランス

該当資料なし

(6) 分布容積

該当資料なし

(7) 血漿蛋白結合率

該当資料なし

3. 吸収

該当資料なし

4. 分布

(1) 血液-脳関門通過性

該当資料なし

(2) 血液-胎盤関門通過性

(「VIII - 10. 妊婦, 産婦, 授乳婦等への投与」の項参照)

(3) 乳汁への移行性

(「VIII - 10. 妊婦, 産婦, 授乳婦等への投与」の項参照)

(4) 髄液への移行性

該当資料なし

(5) その他の組織への移行性

該当資料なし

5. 代謝

(1) 代謝部位及び代謝経路

該当資料なし

(2) 代謝に関与する酵素（CYP450 等）の分子種

該当資料なし

(3) 初回通過効果の有無及びその割合

該当資料なし

(4) 代謝物の活性の有無及び比率

該当資料なし

(5) 活性代謝物の速度論的パラメータ

該当資料なし

6. 排泄

(1) 排泄部位及び経路

該当資料なし

(2) 排泄率

該当資料なし

(3) 排泄速度

該当資料なし

7. トランスポーターに関する情報

該当資料なし

8. 透析等による除去率

該当資料なし

Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

1. 警告内容とその理由

該当記載事項なし

2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）

【禁忌（次の患者には投与しないこと）】

- (1) 明らかな下部尿路閉塞症状である排尿困難・尿閉等を有する患者〔排尿困難・尿閉等が更に悪化するおそれがある。〕
- (2) 閉塞隅角緑内障の患者〔抗コリン作用により眼圧が上昇し、症状を悪化させることがある。〕
- (3) 重篤な心疾患のある患者〔抗コリン作用により頻脈、心悸亢進を起し、心臓の仕事量が増加するおそれがある。〕
- (4) 麻痺性イレウスのある患者〔抗コリン作用により胃腸管の緊張、運動性は抑制され、胃腸管内容物の移動は遅延するため、麻痺性イレウスの患者では、胃腸管内容物の停滞により閉塞状態が強められるおそれがある。〕
- (5) 衰弱患者又は高齢者の腸アトニー、重症筋無力症の患者〔抗コリン作用により、症状を悪化させるおそれがある。〕
- (6) 授乳婦（「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照）
- (7) 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

5. 慎重投与内容とその理由

【慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）】

- (1) 排尿困難のおそれのある前立腺肥大患者〔前立腺肥大患者では、排尿障害を来していない場合でも、抗コリン剤の投与により排尿障害を起こすおそれがある。〕
- (2) 開放隅角緑内障の患者〔抗コリン作用により眼圧が上昇し、症状を悪化させることがある。〕
- (3) 甲状腺機能亢進症の患者〔心拍数増加等の症状の悪化を招くおそれがある。〕
- (4) うっ血性心不全の患者〔代償性交感神経系の亢進を更に亢進させるおそれがある。〕
- (5) 不整脈のある患者〔頻脈性の不整脈を有している患者では、副交感神経遮断作用により交感神経が優位にたち、心拍数の増加等が起こるおそれがある。〕
- (6) 潰瘍性大腸炎の患者〔中毒性巨大結腸があらわれるおそれがある。〕
- (7) 高温環境にある患者〔抗コリン作用により発汗抑制が起こり、外部の温度上昇に対する不耐性が生じて、急激に体温が上昇するおそれがある。〕
- (8) 重篤な肝又は腎疾患のある患者
- (9) パーキンソン症候群又は認知症・認知機能障害のある高齢者〔抗コリン作用により、症状を悪化させるおそれがある。〕

6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法

視調節障害、眠気を起こすことがあるので、本剤投与中の患者には、自動車の運転等危険を伴う機械の操作に注意させること。

7. 相互作用

(1) 併用禁忌とその理由

該当記載事項なし

(2) 併用注意とその理由併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
抗コリン剤 三環系抗うつ剤 フェノチアジン系薬剤 モノアミン酸化酵素阻害剤	口渇、便秘、排尿困難、目のかすみ等の副作用が増強されるおそれがある。	抗コリン作用が増強されるおそれがある。

8. 副作用

(1) 副作用の概要

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(2) 重大な副作用と初期症状（頻度不明）

- 1) **血小板減少**：血小板減少があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。
- 2) **麻痺性イレウス**：麻痺性イレウスがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、著しい便秘、腹部膨満等があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 3) **尿閉**：尿閉があらわれることがあるので、観察を十分に行い、症状があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(3) その他の副作用

	頻度不明
精神神経系	めまい、眠気、頭痛、しびれ、振戦、認知機能障害、抑うつ等
循環器	頻脈
消化器系	口渇、下痢、胃腸障害、胃部不快感、嘔気、食欲不振、胸やけ、便秘、腹部膨満感、口内炎、嘔吐、舌炎、嚥下障害等
過敏症	発疹、血管浮腫、蕁麻疹等
泌尿器系	排尿困難、残尿等
肝臓	AST (GOT) 上昇、ALT (GPT) 上昇
その他	浮腫、倦怠感、口が苦い、発熱、熱感、目のかすみ、眼瞼結膜充血、汗が出なくなる、咽頭部痛、胸痛、皮膚乾燥、嗄声、眼乾燥、潮紅等

(4) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧

該当資料なし

(5) 基礎疾患，合併症，重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度

該当資料なし

(6) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法

- 1) **禁忌**：本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者には投与しないこと。
- 2) **その他の副作用**：過敏症（発疹，血管浮腫，蕁麻疹等）があらわれることがある。

9. 高齢者への投与

高齢者に投与する場合には少量から投与し，観察を十分行うとともに，過量投与にならぬよう注意すること。

10. 妊婦，産婦，授乳婦等への投与

- (1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないことが望ましい。〔妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。〕
- (2) 授乳中の婦人には投与しないこと。〔動物実験で乳汁への移行が報告されている。〕

11. 小児等への投与

小児に対する安全性は確立していない。

12. 臨床検査結果に及ぼす影響

該当記載事項なし

13. 過量投与

該当記載事項なし

14. 適用上の注意

薬剤交付時：PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。
(PTPシートの誤飲により，硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し，更には穿孔を起こして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。)

15. その他の注意

該当記載事項なし

16. その他

該当記載事項なし

IX. 非臨床試験に関する項目

1. 薬理試験

(1) 薬効薬理試験（「VI. 薬効薬理に関する項目」参照）

(2) 副次的薬理試験

該当資料なし

(3) 安全性薬理試験

該当資料なし

(4) その他の薬理試験

該当資料なし

2. 毒性試験

(1) 単回投与毒性試験

該当資料なし

(2) 反復投与毒性試験

該当資料なし

(3) 生殖発生毒性試験

該当資料なし

(4) その他の特殊毒性

該当資料なし

X. 管理的事項に関する項目

1. 規制区分

製 剤	オキシブチニン塩酸塩錠 1mg「日医工」 オキシブチニン塩酸塩錠 2mg「日医工」 オキシブチニン塩酸塩錠 3mg「日医工」	該当しない
有効成分	オキシブチニン塩酸塩	該当しない

2. 有効期間又は使用期限

外箱等に表示の使用期限内に使用すること（3年：安定性試験結果に基づく）

3. 貯法・保存条件

オキシブチニン塩酸塩錠 1mg「日医工」：室温保存

オキシブチニン塩酸塩錠 2mg「日医工」：室温保存

オキシブチニン塩酸塩錠 3mg「日医工」：室温保存，遮光保存

4. 薬剤取扱い上の注意点

（1）薬局での取り扱い上の留意点について

（「貯法・保存条件」の項参照）

（2）薬剤交付時の取扱いについて（患者等に留意すべき必須事項等）

くすりのしおり：有

（「Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）」に関する項目）を参照）

（3）調剤時の留意点について

特になし

5. 承認条件等

該当しない

6. 包装

販売名	PTP 包装	バラ包装
オキシブチニン塩酸塩錠 1mg「日医工」	100 錠（10 錠× 10）	—
オキシブチニン塩酸塩錠 2mg「日医工」	100 錠（10 錠× 10） 1000 錠（10 錠×100）	1000 錠
オキシブチニン塩酸塩錠 3mg「日医工」	100 錠（10 錠× 10） 500 錠（10 錠× 50）	—

7. 容器の材質

PTP：ポリ塩化ビニルフィルム，アルミニウム箔

バラ：ポリプロピレン袋

8. 同一成分・同効薬

同一成分：ポラキス錠 1，ポラキス錠 2，ポラキス錠 3

9. 国際誕生年月日

不明

10. 製造販売承認年月日及び承認番号

販売名	承認年月日	承認番号
オキシブチニン塩酸塩錠 1mg「日医工」	2012年 8月 3日	22400AMX00801000
オキシブチニン塩酸塩錠 2mg「日医工」	2012年 8月 3日	22400AMX00802000
オキシブチニン塩酸塩錠 3mg「日医工」	2012年 8月 3日	22400AMX00803000

旧販売名	承認年月日	承認番号
ウルゲント錠 1mg	2011年 1月 14日	22300AMX00030000
ウルゲント錠 2mg	1997年 12月 15日	20900AMZ00703000
ウルゲント錠 3mg	1996年 3月 15日	(8AM) 572

11. 薬価基準収載年月日

販売名	薬価基準収載年月日
オキシブチニン塩酸塩錠 1mg「日医工」	2012年 12月 14日
オキシブチニン塩酸塩錠 2mg「日医工」	2012年 12月 14日
オキシブチニン塩酸塩錠 3mg「日医工」	2012年 12月 14日

旧販売名	薬価基準収載年月日
ウルゲント錠 1mg	2011年 6月 24日
ウルゲント錠 2mg	1998年 7月 10日
ウルゲント錠 3mg	1996年 7月 5日

12. 効能又は効果追加, 用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容

該当しない

13. 再審査結果, 再評価結果公表年月日及びその内容

該当しない

14. 再審査期間

該当しない

15. 投与期間制限医薬品に関する情報

本剤は, 投薬期間制限の対象となる医薬品ではない。

16. 各種コード

販売名	薬価基準収載 医薬品コード	レセプト 電算コード	HOT(9桁) コード
オキシブチニン塩酸塩錠 1mg「日医工」	2590005F3122	622075002	120750701
オキシブチニン塩酸塩錠 2mg「日医工」	2590005F1278	621372022	113720022
オキシブチニン塩酸塩錠 3mg「日医工」	2590005F2010 (統一収載コード)	620567718	105677818

17. 保険給付上の注意

本剤は保険診療上の後発医薬品である。

X I. 文献

1. 引用文献

- 1) 日医工株式会社 社内資料（無包装の安定性試験）
- 2) 日医工株式会社 社内資料（溶出試験）
- 3) USPDI, 16th edition.p.2259（1996）
- 4) 日医工株式会社 社内資料（生物学的同等性試験）

2. その他の参考文献

なし

X II. 参考資料

1. 主な外国での発売状況

なし

2. 海外における臨床支援情報

なし

X III. 備考

その他の関連資料

なし

付表 1—1

薬食発第 0331015 号（平成 17 年 3 月 31 日）に基づく承認申請時に添付する資料

別表 1 及び別表 2-（1）医療用医薬品より改変

添付資料の内容		新有効成分含有製剤（先発医薬品）	その他の医薬品（後発医薬品）	剤形追加に係る医薬品（後発医薬品）
イ 起源又は発見の経緯及び外国における使用状況等に関する資料	1 起源又は発見の経緯	○	×	○
	2 外国における使用状況	○	×	○
	3 特性及び他の医薬品との比較検討等	○	×	○
ロ 製造方法並びに規格及び試験方法等に関する資料	1 構造決定及び物理化学的性質等	○	×	×
	2 製造方法	○	△	○
	3 規格及び試験方法	○	○	○
ハ 安定性に関する資料	1 長期保存試験	○	×	△
	2 苛酷試験	○	×	△
	3 加速試験	○	○	○
ニ 薬理作用に関する資料	1 効力を裏付ける試験	○	×	×
	2 副次的薬理・安全性薬理	○	×	×
	3 その他の薬理	△	×	×
ホ 吸収、分布、代謝、排泄に関する資料	1 吸収	○	×	×
	2 分布	○	×	×
	3 代謝	○	×	×
	4 排泄	○	×	×
	5 生物学的同等性	×	○	○
	6 その他の薬物動態	△	×	×
ヘ 急性毒性、亜急性毒性、慢性毒性、催奇形性その他の毒性に関する資料	1 単回投与毒性	○	×	×
	2 反復投与毒性	○	×	×
	3 遺伝毒性	○	×	×
	4 がん原性	△	×	×
	5 生殖発生毒性	○	×	×
	6 局所刺激性	△	×	×
	7 その他の毒性	△	×	×
ト 臨床試験の成績に関する資料	臨床試験成績	○	×	×

○：添付，×：添付不要，△：個々の医薬品により判断される

付表 1 — 2

医薬発第 481 号（平成 11 年 4 月 8 日）に基づく承認申請時に添付する資料

別表 1 及び別表 2-（1）医療用医薬品より改変

添付資料の内容		新有効成分含有製剤（先発医薬品）	その他の医薬品（後発医薬品）	剤形追加に係る医薬品（後発医薬品）
イ 起源又は発見の経緯及び外国における使用状況等に関する資料	1 起源又は発見の経緯	○	×	○
	2 外国における使用状況	○	×	○
	3 特性及び他の医薬品との比較検討等	○	×	○
ロ 物理的・化学的性質並びに規格及び試験方法等に関する資料	1 構造決定	○	×	×
	2 物理的・科学的性質等	○	×	×
	3 規格及び試験方法	○	○	○
ハ 安定性に関する資料	1 長期保存試験	○	×	△
	2 苛酷試験	○	×	△
	3 加速試験	○	○	○
ニ 急性毒性、亜急性毒性、慢性毒性、催奇形性その他の毒性に関する資料	1 単回投与毒性	○	×	×
	2 反復投与毒性	○	×	×
	3 生殖発生毒性	○	×	×
	4 変異原性	○	×	×
	5 がん原性	△	×	×
	6 局所刺激性	△	×	×
	7 その他の毒性	△	×	×
ホ 薬理作用に関する資料	1 効力を裏付ける試験	○	×	×
	2 一般薬理	○	×	×
ヘ 吸収、分布、代謝、排泄に関する資料	1 吸収	○	×	×
	2 分布	○	×	×
	3 代謝	○	×	×
	4 排泄	○	×	×
	5 生物学的同等性	×	○	○
ト 臨床試験の成績に関する資料	臨床試験成績	○	×	×

○：添付，×：添付不要，△：個々の医薬品により判断される

付表 1 — 3

薬発第 698 号（昭和 55 年 5 月 30 日）に基づく承認申請時に添付する資料

別表 1 及び別表 2-（1）医療用医薬品より改変

添付資料の内容		新有効成分含有製剤（先発医薬品）	その他の医薬品（後発医薬品）	剤形追加に係る医薬品（後発医薬品）
イ 起源又は発見の経緯及び外国における使用状況等に関する資料	1 起源又は発見の経緯	○	×	○
	2 外国における使用状況	○	×	○
	3 特性及び他の医薬品との比較検討等	○	×	○
ロ 物理的・化学的性質並びに規格及び試験方法等に関する資料	1 構造決定	○	×	×
	2 物理的・化学的性質等	○	×	×
	3 規格及び試験方法	○	○	○
ハ 安定性に関する資料	1 長期保存試験	○	×	×
	2 苛酷試験	○	×	×
	3 加速試験	×	○	○
ニ 急性毒性、亜急性毒性、慢性毒性、催奇形性その他の毒性に関する資料	1 急性毒性	○	×	×
	2 亜急性毒性	○	×	×
	3 慢性毒性	○	×	×
	4 生殖に及ぼす影響	○	×	×
	5 依存性	△	×	×
	6 抗原性	△	×	×
	7 変異原性	△	×	×
	8 がん原性	△	×	×
	9 局所刺激	△	×	×
ホ 薬理作用に関する資料	1 効力を裏付ける試験	○	×	×
	2 一般薬理	○	×	×
ヘ 吸収、分布、代謝、排泄に関する資料	1 吸収	○	×	×
	2 分布	○	×	×
	3 代謝	○	×	×
	4 排泄	○	×	×
	5 生物学的同等性	×	○	○
ト 臨床試験の試験成績に関する資料	臨床試験の試験成績	○	×	○

○：添付，×：添付不要，△：個々の医薬品により判断される